

幼保連携型認定こども園 Y M C A 保育園 2 月えんだより

2 月聖句：「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

<ローマの信徒への手紙 12 章 15 節>

1 月 1 日の能登半島地震で災害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げますと共に、ご冥福をお祈りいたします。今年の年明けは、皆さんも「おめでとう」とは言い難い年の始まりだったのではないのでしょうか。被災地の様子は、阪神淡路大震災や東日本大震災の被害の状況とも重なって思い出された方もおられるかと思えます。

今月の聖句の「泣く人と共に泣く」とは、こうした悲しみに暮れる人々の思いに寄り添い、その思いを共にしましょうと、言葉では表記できるものの、人にとって「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」ことの実践は、実に難しいことと思えます。それは人には嫉妬の思いもあり、他の人の幸福が心の内から承知できない時もあります。また歪んだ優越感のような思いが潜んでいて、罪深い存在だと思ふことがあります。恐怖に慄いた感染症の拡大の時を経験してきました。又いくつも起きていく戦争による人と人との対立しあうのも目の当たりにします。そして災害により人が分断されて生きている様子も目にします。それだけではなく、都市化や核家族化が広がる中で、益々「人と共に生きることの体験」が私達自身にも少なくなっています。今こそ普段の生活の中で体験する幸せや悲しみを、自分のことのように一緒になって喜び、泣いたりして他者の体験を共に分かち合うことが必要なのだと考えます。

「幸いなるかな、貧しい人、神の国はあなたのもの」というイエスの言葉の中で、なぜ、貧しい人が幸い？で、神の国はあなたのものなのか？という問いに、マザーテレサは「今の世界で最も大切な問いです。貧しい人、悲しんでいる人、傷ついている人、それはあなた自身を指しています。」と答えられました。つまり、自分の中にも貧しさがあ、悲しみがあ、痛みを負って生きていること、そのことに気づき、その自分をも愛して、養ってくださる神様に会おう時、人は喜びを分かち合い、悲しみを共有できる存在になれるとマザーテレサは言われたのです。そんな神様との出会いが、園の一人一人の心に起こることを願っています。家族を含め、今日会おう人への共感こそが、引き離されたものを一つにしていく原動力となり、平和につながる実践であると信じ、愛の実践者であるイエス・キリストに倣いつつ、その歩みを更に進めていきたいと思えます。

年主題 「ともにつむぎだす」～希望の中で～

2 月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	いっしょに	力あわせて
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 知っていることばを使って思いを伝えようとす * 友だちや保育者と一緒にいることを喜ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> * 寒さの中でも守られているのちを知る * お互いの違いを認めつつ、助け合うことの喜びを感じる * 友だちと伝え合ったり、話し合ったりしながら遊びを作り出す
	つくしのよう	わたしはしゅのこどもです <こども改 123>